

# セルプセンター情報

No.26 October 2010

特定非営利活動法人 日本セルプセンター



漫画「美味しんぼ」でも紹介された、社会福祉法人ひとふさの葡萄で飼育される甲州地どり（山梨県笛吹市）

## 日本セルプセンターでは WEB を活用して、 会員施設に関するさまざまな情報を発信中です !!

日本セルプセンターでは、現在ホームページを活用してさまざまな情報を発信しています。ご覧いただけていますでしょうか？ 隔週月曜日更新の「SELP 訪問ルポ」という会員施設紹介記事を筆頭に、事務局の動きをお知らせする「事務局 NEWS」、会員施設にお得な情報をお知らせする「セルプインフォメーション」など。

これまででは郵便や FAX を中心に会員施設に情報をお届けしていましたが、最新情報をどんどん発信するためには、コスト的にも時間的にも WEB やメールの有効活用が欠かせません。今

後もこの動きは活発化していくと思いますので、どうぞ日本セルプセンターの WEB サイトを定期的にチェックするようにお願いします。

また、新しいコーナーとして会員施設の製品をできる限り紹介していく「SELP 製品カタログ」もスタートしました。製品を事務局に送っていただければ、こちらでちゃんと撮影し、製品の情報を発信

していきます。ここに掲載することで企業に対するアピールにもなっていくことでしょう。会員施設限定のサービスですので、どうぞさまざまな製品を事務局までお送りくださるよう、よろしくをお願いします。（発送先は、日本セルプセンター事務局内「SELP 製品カタログ」宛まで）



## 特集：第1回日本セルフセンター研究大会報告

# 日本セルフセンター設立10周年を記念して 独自の研究大会が、北海道で開催されました。

去る8月31日(火)～9月2日(木)の3日間、北海道札幌市「札幌後楽園ホテル」において、第1回日本セルフセンター研究大会が開催されました。これは日本セルフセンター設立10周年を記念した事業であり、センターが主体となって開催した初のビッグイベントになります。全国から集まった参加者の皆さまも、「事業に特化した」プログラム内容に満足し、口々に次年度以降の定期的な開催を強く要望していました。

今回のセルフセンター情報では、この大会の様態を詳しくレポートし、参加できなかった方々にも大会の雰囲気などをお伝えします。



### 日本セルフセンターの現在の動きと これまでの歴史を詳細に解説

大会のプログラムは、川俣会長からの「日本セルフセンターの戦略」と題する基調報告でスタートを切りました。現在のセンターは、会員施設に対するさまざまな情報発信をリアルタイムに実施し、デザイン支援や営業研修、スポーツ文化事業、SELP 製品販売活動、SELP 自動販売機事業などを積極的にこなしています。また、日本財団とタイアップした真心絶品プロジェクトの運営や、会員獲得への積極的な取り組みなど、新しい体制でダイナミックに多種多様な活動を展開してきました。今後は共同受注センターとしての役割や企業との連携、内需拡大、スポーツ文化事業のさらなる拡充等の課題も山積していますが、会員施設の理解と協力によってこれらの課題は一つづつクリアできるでしょう。

次に厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課・佐々木薫課長補佐からの「障害福祉施策の最近の動向」についての行政説明です。「工賃倍増5カ年計画支援事業費」が行政刷新会議の事業仕分けで、予算の大幅削減という厳しい指摘を受けるなど、障害者福祉をとりまく現状は大変厳しいものがある中、より実効性のある予算配分をおこなっていく旨が、10月末に開催されるイベントなどの具体的な動きと共に解説されました。

そして斎藤顧問より「日本セルフセンター、これまでの10年、これからの10年」というテーマの記念講演へと続きます。日本セルフセンターという組織がそもそもどんな目的のもとで結成されたのか、その原点を今一度見つめ直すことは非常に貴重な体験だったと思われまます。

さらに日本セルフセンターが日本財団と共に繰り広げている「真心絶品」プロジェクトについて、日本財団公益・ボランティア支援グループの伊藤弘毅氏から詳しく解説され、会員施設に対して改めてこの活動への参加協力と理解促進を訴えました。「真心絶品」が単にWEBサイト上で施設製品を販売することを目的とするのではなく、「選ばれた商品」を通じて「障害者施設製品のブランド化」を図ろうという主旨を、ご理解いただけたのではないのでしょうか。

### 事業的に成功を収める先進施設の事例も センター的な切り口で具体的に紹介

次に目玉企画の一つである「事業的に成功を収めている先進施設の事例報告」です。日本セルフセンターの最も重要な目的の役割の一つが、各施設の事業サポートであり、各施設における利用者工賃をアップさせることにあります。そのためには全国で成功している施設の事例について、もっと多くの施設が具体的に知っておく必要があるでしょう。

今回報告していただいたのは、第二虹の園(宮城県)、羊蹄セルプ(北海道)、ワークスひるぜん(岡山県)などです。どの事例も、さすがに先進施設の事例らしく、徹底して考え抜かれた製品企画や販売計画、職員の意識改革活動がなされているのが印象的でした。

非常に興味深い内容ばかりでしたが、とくに「地域につきささる」と題した第二虹の園の活動内容は、資金力がない施設でも「やる気さえあれば、ビジネスチャンスは地域の中にたくさん潜んでいる」ことを気づかせてくれる意義



深い報告でした。納豆等の日常食品を製造している羊蹄セルプの「内部市場の活性化に向けた問題提起」も、セルフ同士の内需拡大というテーマに即した内容です。食堂等の食材として、施設同士で日常食品を購入し合う活動をもっと積極的にこなしていくべきとの認識を新たにしないではないでしょうか。

### チャレンジ! おおいた福祉共同事業協議会の 共同受注活動の先進的な取り組み

日本セルフセンターの活動の柱の一つでもあるスポーツ文化事業において、2008年度に大きな成果をあげたのが大分県の「チャレンジ! おおいた福祉共同事業協議会」です。これは大分県内の11法人14施設をまとめあげ、おおいた国体の会場で「めじろん」というキャラクターを前面に出したお土産クッキーを共同で製造販売するという挑戦でありました。

大会会場だけではなく、地域内のデパートに専用コーナーを設けてもらう等の営業活動も功を奏し、トータルで18,000箱のお土産クッキーを製造。5,110万円にも及ぶ販売実績を残したのです。純益1,470万円を製造比率によって利益を14施設で分配したため、それまで一枚0.3円のシール貼りをしていた施設にとっては目から鱗の経験だったと言います。

さらに「チャレンジ! おおいた福祉共同事業協議会」はおおいた国体後も、新たに8法人11施設で再スタート。災害などの非常時に食べるオリジナル商品「防災クッキー」の企画製造販売や、大分県庁舎内にオープンさせた「けんちようのパン屋さん」運営等の事業などの活動を継続

中とのこと。そんなダイナミックな理想的な共同受注活動の動きが、丹羽代表から報告されました。他の地域でも是非参考にしたい事例だと思います。

### 企業とのタイアップや共同購入に関する アイデアは、今後の動きに期待が高まる

また一流企業からのセルフセンターと組んだタイアップ事業の提案もありました。SELP自動販売機もそうですが、大きな企業とタイアップした企画によりセルフセンター全体の利益になる事業は、今後も積極的に取り組んでいく予定です。今回はイオンリテール様、フランスベッド様、日清医療食品様、東横インアーキテクト&デベロップメント様等をお招きしましたが、今後もさまざまな企業からの提案をこのような場で紹介していきたいと考えています。東横インアーキテクト&デベロップメント様からは「東横インホテルにおける施設製品との関わり」をお話していただきました。

このように3日間の大会プログラムは、日本セルフセンターに関わる人たちの具体的な事業についての講義が盛りだくさんでした。自分たちの事業をさらに大きくしたいと考えている人にとっては、本当に有意義な内容だったのではないのでしょうか。大会に参加していただけた方々からの反応は「日本セルフセンターの存在意義が改めてわかった」「全国の施設と関係を密にとって、事業拡大を図りたい」等の意見が多数寄せられています。是非今後とも、みなさまの力を結集して、より大きな事業を実施していこうではありませんか。今後とも日本セルフセンターをよろしくお願ひします。

# COMING SOON!

第7回真心絶品認定委員会は、  
12月8日（水）に開催です。  
積極的にご参加ください。

日本財団との共同により「全国障害者施設のブランド化プロジェクト」の一環として運営されている真心絶品事業。隔月に開催される認定会議によって、次々新しい認定商品が増えています。

真心絶品に認定されるためには、1アイテムにつき10,000円の認定料が必要なのですが、日本セルフセンター会員に限りこの認定料が免除される特典があります。

次回の認定委員会は12月8日（水）です。食品の応募締め切りは、12月6日（月）。食品以外は、11月29日（月）です。会員の皆様はどんどん日本セルフセンターまで製品をお送りください。お待ちしております。

詳細の内容は、日本セルフセンターホームページ「SELFP インフォメーション」をご覧ください。応募要項や応募用紙は、自由にダウンロードいただけます。



## topics 表紙の写真

山梨県の社会福祉法人「ひとふさの葡萄」では、広大な土地で放し飼いにした甲州地どりの飼育をおこなっています。この地どりは甲州地どり普及生産組合の指導のもとに、美味しい鳥を育てるための徹底的なこだわり環境で飼育されている山梨県の名産品。その素晴らしい味わいは漫画「美味しんぼ」（80巻／日本全県味巡り 山梨編）でも紹介され、全国的に有名な商品となりました。現在では甲州地どり全出荷量の6割を「ひとふさの葡萄」が担うほどの事業規模となっています。

## notice

## 告知板

SELFP 自販機設置販促キャンペーン

「感動写真コンテスト2010」締め切り迫る!

SELFP 自動販売機設置を拡大させ、働く障害者への理解を地域に大きく広げ、手数料収入で工賃アップをはじめとする支援環境の改善に大きな役割を果たす自販機事業を継続的に発展させるため、当センターでは拡大キャンペーンを実施しております。

本年度は上記、設置拡大キャンペーンの他、新たに「感動写真コンテスト」を企画しました。自販機の飲料が施設利用者等へ安らぎと憩いを提供していることや働く障害者を応援していることを誰もが感じられる写真を募集します。見るもの誰もが感動する写真は、今後のキャンペーン等にも広く活用していきます。締め切りは、11月30日（火）です。詳しい応募要綱は、日本セルフセンターのホームページ「SELFP インフォメーション」をご覧ください。

## 「第2回デザイン活動支援事業」の対象施設を選考中です

昨年度からスタートした新しい取り組み「デザイン活動」支援事業の対象施設が10月28日の総務広報委員会において、企業診断士やプランナーなどの専門家を交えた会議の中で協議されました。今回はより選考基準を明確にし、慎重を期すために、一次選考で選ばれた施設に現地調査を行った後で、二次選考を実施することになりました。

本事業の狙いが、単なる製品パッケージの制作支援に留まらず、できれば施設イメージ全体のデザイン支援につなげることを狙っているからです。昨年度の花の木苑で成功したような事例が、今年はたくさん生まれることを願っています。

本事業の進行状況は昨年同様、ホームページ「事務局NEWS」にて随時報告しています。どうぞ、お楽しみに。



セルフセンター情報 第26号

平成22年11月15日発行 発行所 特定非営利活動法人 日本セルフセンター  
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-13-1 大橋御苑駅ビル別館2F

発行人：会長 川俣 宗則 編集人：嶋田富士男

TEL：03-3355-8877 FAX：03-3355-7666

http://www.selpjapan.net/ E-mail：center@selpjapan.net